

光星逆転 接戦制す

春季
県高校野球

第6日

◇準々決勝(八戸市長根公園)

八学光星
000 000 300 | 3
八工大
(学) 柴田、及川一歩
(工) 上小路一田口

▶三塁打 田中楓
【評】八学光星がロースコアの接戦を制した。2点を追う七回、山上の適時打で1点を返すと、

代打新谷の右前適時打に敵失が絡んでさらに2点を加え、勝ち越しに成功した。三回から救援した及川は7回を被安打1、無失点と好投した。

八工大は二回、小島慧のスライズなどで2点を先制。先発のエース上小路が粘投を続けたが打線が援護できなかった。



上小路 7回隙突かれる

○…完投した八工大のエース上小路は「(失点した)七回は粘りきれなかった」と反省した。コントロールは上々。さまざまな球種を使い分け、六回まで単打1本に抑えた。しかし七回、得意のスライダーがわずかに浮き上がった隙を突かれ、三塁打を許したのをきっかけに3失点。送球ミスや失策が重なったのも痛かった。打撃陣は反撃を試みるも、取り返すことができなかった。

長谷川監督は、目に見えない守りのミスが多かったことを挙げ「落ち着いて瞬間的に(打球処理の正しい)判断ができるよう、練習しなければ」と語った。

【八学光星 八工大】三回から登板し、7回を無失点と好投した八学光星の及川一歩

2番手及川 7回零封

ヒーロー

2年連続同カードとなった準々決勝は、八学光星に軍配が上がった。三回から登板した最速141km/hの2年生右腕・及川は三塁を踏ませない安定した投球を披露し、7回を被安打1、無失点と好投。一打者一人

人に全力で投げ切れたことがよかったと胸を張った。前日(17日)の3回戦から連投となったが「疲れはなく、投げた準備はできていた」。先発田中からマウンドを託される。130km/hの速球に4種類の変化球を織り交ぜ、4イニングを三塁退に抑えた。

最終打者を右飛に仕留めると、仲間と抱き合いながら、大きな声で「投手」

接戦を制した喜びを爆発させていた。

「打たせて取るピッチングが持てた投手。いい経験が積むことができた」と仲井監督。及川は「春に優勝しなければ夏の優勝はない」と思っている。自分の売りである強気のピッチングでチームを勝たせたい」と力強く語った。

(棟方好華)

光星×青北
聖愛×山田高
4強決定 24日激突

24日の試合

(左のチームが一塁側)

◇準決勝

▶八戸市長根公園

八学光星-青森北 (10・0)

弘学聖愛-青森山田 (12・30)